

上もかかりました。

三春からは、木材や石材、たばこなども運ばれました。

この馬車鉄道は、大正4年（1915年）には廃止になりました。

それは、大正3年に、平郡線が三春と郡山間に開通したからです。

大正6年（1917年）に平郡線は全線開通し、今の磐越東線と呼ばれるようになりしました。

(3) 太平洋戦争と三春の生活（昭和時代）

太平洋戦争は、昭和16年（1941年）に始まりましたが、戦争による人々の苦しい生活は、昭和6年（1931年）の満州事変以来続いていました。

戦争が始まってからは、食料や衣料品などの生活物資が不足して、苦しい生活が続きました。砂糖やマッチ、木炭、衣料品などが切ふ制となり、ほしい品物を買うときは、商店に切ふを出して切ってもらい、買った品物に応じて点数を切り取ってもらうしくみになりました。

ほしい品物があっても、切ふがなければ買えなくなりました。

食料は不足して、配給制になりました。

昭和16年と20年は、夏の気温が低だけでなく、台風や大雨によって農作物があまり取れず、三春町はますます食料難になりました。

そのころは、供出という割り当てがあつて、米や麦、いも類だけでなく、金属やボロ（もめん）なども出したため、農家の人たちの生活も大変苦しくなりました。

昭和19年（1944年）から20年にわたって、三春町は、東京からの学童そかいを約240名受け入れて、お寺や旅館に分けてとめ、勉強や生活の世話をしました。

太平洋戦争は昭和20年に終わりましたが、食料難はずっと続き、米のかわりにおからや乾パン、じゃがいもなどが配給されました。